特集
留学・留学生

世界とつながる三重大の取り組み

◎留学生の活動 ～世界から三重大へ!～

三重大学の外国人留学生は2017年5月1日現在で295名、32の国と地域の出身者が在籍しています。国籍別では、中国からの留学生数が135名と全体の半分近くを占めますが、韓国、インドネシア、ベトナム等、東アジア・東南アジア諸国からの留学生が多く、欧州地域ではドイツから15名の留学生を受け入れています。

三重大学に在籍する留学生たちは、地域との国際交流活動を数多く行っています。その活動の一部をご紹介します！

津市国際交流デー

2016年10月、お城西公園で開催された「津市国際交流デー」に三重大学の留学生が参加しました。中国、インドネシアの留学生たちがそれぞれの国の伝統料理を振舞う「国際屋台村」を出店しました。

参加者インタビュー

エルドンオチル さん（中国）

中国人留学生のグループ6.7人で企画をし、屋台で中国の伝統的な料理「リャンピー」を販売しました。母国を離れ心細いこともある中で、このような交流の機会は楽しく、自分の国の料理を食べてもらえるのも嬉しかったです。

また、ステージで馬頭琴（ばとうきん）の演奏も披露しました。同じステージに出ていた他の留学生や地域の人と仲良くなり、他のイベントにも参加してみようというモチベーションにもつながりました。大変なこともありましたがそれ以上によい経験でした。また機会があればぜひ参加したいです。

セカンドホーム

セカンドホームは、「ホームステイではないけれど、日本の家族に」をテーマに、三重大学留学生とホストファミリーが、留学生を自宅に招いたり、どこかに遊びに行ったり、といった交流を継続しておこなうプログラムで、1999年から三重大学と津市のボランティア団体「ホームステイ・イン津」が協力しておこなっています。一学期に一度、留学生とホストファミリーを引き合わせるパーティーが開かれ、交流がスタートします。2016年度後期は中国、インドネシア、ドイツなどの留学生18名が参加しました。

参加者インタビュー

セパタリス ベルナデッタ パルフシフ さん（インドネシア）

ホストファミリーとはスケジュールを合わせて、一緒にご飯を食べに行ったり、家に招いてもらったりといった交流をしています。私のホストファミリーは歳も近くて、興味のあることも似ているので、いろんなことを話します。映画や音楽、勉強の話、日本での生活で困ったことを相談することもあります。家族でもあり友達でもあるような関係で、交流はとても楽しく、これからも続けていきたいです。

県内の学校での交流

椿小学校

2017年1月、鈴鹿市立椿小学校の行事「椿ワールド」にフランス、韓国などの留学生が参加しました。留学生は各学年でグループ発表を見学し、一緒に給食を食べるなどして児童と交流しました。

飯野高校

2017年5月、三重県立飯野高等学校からの依頼を受けて、「多文化理解」をテーマとした授業の講師として留学生を派遣しました。留学生は1.2年生約40名、3.4年生約15名の前で、出身国の伝統や行事を紹介しました。その後の質疑応答の際には、高校生から「日本に来たきっかけは」「日本での留学で困ったことは」などの質問がありました。

参加者インタビュー

グエン ティー ジエウ ヒエン さん（ベトナム）

最初は大人数の前での発表に緊張していましたが、高校生は自分と年齢も近く、真剣に聞いてくれたので、だんだん緊張がほぐれていきました。日本に来て6年になりますが、このように地域と交流できることはとても楽しいです。

◎海外留学プログラム～三重大から世界へ!～

三重大学では2016年度、30を越える留学プログラムが実施され、海外渡航学生は451人となりました。その中でも特に規模の大きなものをご紹介します。

Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学が交代で主催をしている国際交流を兼ねた論文発表会で、1994年に始まり今年が24年目となります。2011年度からは新たにボゴール農科大学（インドネシア）が主催校に加わり、例年アジアの10数大学が参加しています。

昨年2016年はインドネシアのボゴール農科大学で開催されました。三重大学からは選考された15名の学生が参加し、英語でテーマごとに研究内容の発表を行いました。

2017年は、10月23日（月）～27日（金）、三重大学での開催です！

参加者体験談

永谷 良介 さん
生物資源学研究科
共生環境学専攻
博士前期課程 1年

参加のきっかけは、前年度に参加していた先輩から「成長できる」と勧められたこと、海外での異文化交流に興味があったこと、４年間の大学生活の締めくくりとして何か挑戦したいという気持ちからでした。

英語はあまり得意ではないため、最初は不安も大きかったのですが、英語での発表内容を暗記したり、問答をシュミレーションするなど、一ヶ月前から念入りに準備をして挑みました。

当日にはその成果が出て、発表を楽しむ余裕もできました。英会話にも自信がつき、研究に関してなら今でもすぐに英語で説明できるくらいです。期待以上に成長できました。

他大学の学生との交流も魅力の一つです。現地では日本人で固まらず、他の大学の学生と積極的に交流しました。特にタイの大学生と仲良くなり、今でも英語で連絡を取り合うなど交流が続いています。

三重大で開催される今年度はボランティアとして参加します。「もう一度かかわりたい」そんなふうに思える経験でした。

シェフィールド大学短期海外研修

教養教育では、2015年4月から英語特別プログラムを開始しました。TOEIC高得点者を対象とした1年次のみ受講できるカリキュラムで、英語を母語とする教員による授業などを通じて1年間実践的な英語力を磨きます。その集大成として、春休みに3週間の短期海外研修に参加することができ、2年目となった2016年度は56名の学生が参加しました。

海外研修参加者は、シェフィールド大学英語教育センターのアカデミック英語入門コース"Pathway"を受講し、多国籍の留学生との混合クラスで英語の授業や大学教員による講義、日帰り研修旅行などの研修を受けました。また、研修期間中は、イギリス人の家庭にホームステイしました。

参加者体験談

倉田 園加 さん
工学部
分子素材工学科 2年

英語コースでは、最初にテストがあってレベル別にクラス分けされ、各国からの留学生と共に10人ほどの少人数クラスで学びました。授業はプレゼンなどもあり、主体的に話す機会が多かったのが印象的でした。

放課後の時間は、ホストファミリーと過ごしたり、イベントやスポーツなどのアクティビティーに参加してシェフィールド大学の学生と交流したり、いろいろな過ごし方ができました。私はホストファミリーと過ごすことが多く、イギリス料理をご馳走してもらったり、ちらし寿司など日本料理を振舞ったり、ホームステイならではの交流を楽しみました。

様々な交流を通じて、自分の伝えたいことが伝えられないもどかしさを感じ、自分の英語力の足りなさを痛感しましたが、一方で、そのことがもっと頑張らなくてはというモチベーションにつながりました。

また、うまく話せなくてもジェスチャーなどを交えて、「なんとか話してみよう、伝えよう」とする積極性が身につきました。